

ピティナ会員研修交流会 「アンサンブルパーク」 指導の奥行きと幅を広げよう

2月20日・21日の週末、昭和音楽大学南校舎C102教室で今年も会員研修交流会「アンサンブルパーク」が開催されました。例年通り、土曜日は、ピアノにこだわらない領域を扱う三つのセミナー、そして日曜日は受講者同士のデイスカッションを中心に行ってきました。



第一講座：ジェラルド・ブール先生

20日の第一講座は、ジェラルド・ブール先生。弦とピアノの幸福なアンサンブルが奏でられるために、ヴァイオリニストはピアノリストに何を求めるのか、優しく、しかし力強く語りかけて下さいます。途中、4名の受講者がブール先生と共演をし、その音に会場中が酔い



第二講座：古川玄一郎先生

れました。「二流の奏者と共演することで得られるもの大きさに驚いた」との声も寄せられました。第二講座は、古川玄一郎先生。モノの数だけ種類があると言っている打楽器には、それぞれの音色にまた無限の可能性があります。目から鱗が落ちるようなお話の数々に現代音楽の世界が接続され、ピアノ・レッスンの日々についても改



第三講座：夏秋文彦先生

めて自分の心に問いを投げたくなる、新鮮な時間となりました。第三講座は、夏秋文彦先生。鍵盤ハーモニカによる即興音楽の、驚くべきイマジネーション、創造性の高さには目を見張られます。ピアノを弾いていれば誰でも導入しやすいこの小さな楽器の魅力が、ピティナ会員の総力により、日本中のレッスン室に広がる日も近いのではないのでしょうか。21日は、ピティナについての説明会に続き、別会場(ユリホール)で開催中のステップ新百合ヶ丘冬季地区を見学しつつ、アドバイザーと同じような形で参加者の演奏についてコメント等を書き入れる「ティーチングカルテ」を受講者全員で作成。お弁当を食べながら懇親を深めたのちに、午後には少人数のグループに分かれてデイスカッションを行いました。

ピアノの指導者同士、日常においては、周りの仲間と悩みや課題をシェアする場所はなかなかないものです。しかしこの日は、住んでいる地域も飛び越え、自分たちは「指導者」としても生涯学び続けるんだ、という志が受講者を一致団結させました。アンサンブルパークの特徴として、江口文子先生を始めピティナの理事、20名前後のステーション代表者、審査員やアドバイザー経験も豊かなベテランの会員の中に、「新入会員」として入会間もない会員が混じつての会となるのが挙げられます。この「公園」においては誰もが自由につながりうるし、また、ピティナの組織自体が、会員ステーションⅡ支部Ⅱ本部という線を通じて、既にそのようになっている、ということを感じていただく場でもあります。来年も、どうぞご期待ください。

